

平成27年度 第2回 白井市総合計画審議会
<議事概要>

日 時：平成27年7月28日（火） 午後2時～3時25分

場 所：白井市役所 3階会議室2

出席者：【委員】

市川温子委員、平川正之委員、山岸秀之委員、小林信章委員、山崎康夫委員
高尾公矢委員、辻川 毅委員、助友裕子委員、関谷 昇委員、竹内正一委員
林 榮造委員、山口善弘委員、亀川 香委員 13名

【事務局】

折山企画政策課長、相馬主査補、富田主査補、勝又主事、黒澤主査補（都市計画課）

【計画策定支援事業者】(株)地域計画建築研究所 田中研究主任

傍聴者：4名

1. 開 会

[事務局]

- ・平成27年度第2回総合計画審議会を開催いたします。

2. 会長あいさつ

[会長]

- ・お忙しいところご出席をいただきまして、ありがとうございます。
- ・前回の第1回審議会開催時は基本構想が審議中でしたが、7月8日に基本構想（案）が案のとおり議決され、構想が固まりました。
- ・本日の会議の主な内容は、第5次総合計画前期基本計画（素案）の案についての審議になります。前回は骨子でしたが、第1回の審議会の意見を踏まえて、前期基本計画の全体の素案となります。委員各位におかれましては十分にご理解の上、忌憚のないご意見を伺いたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

3. 議 題

◎審議会議事進行

白井市附属機関条例第6条第1項により高尾会長が議長を務め議事進行。

- ・議題に入る前に、事務局より、6月議会の最終日の7月8日に第5次総合計画の基本構想が原案のとおり可決されたことを報告。

（1）第5次総合計画・前期基本計画（素案）の案について

[事務局]

次の配布資料により、前回の第1回審議会の前期基本計画骨子案から変わった部分を中心に説明。

- ・白井市第5次総合計画 前期基本計画（素案）（案）
- ・白井市第5次総合計画 前期基本計画の体系
- ・第2回 総合計画審議会（7/28）資料について
（第1回審議会意見を受けた修正内容を記載したもの）

◆資料 白井市第5次総合計画 前期基本計画（素案）（案）の説明

1 前期基本計画の概要

(1) 計画の位置づけ

基本計画は将来像の実現に向けたまちづくり重点戦略に基づき、市が重点的に取り組むべき施策の方向性を横断的に体系化したものと位置づけています。

(2) 計画の構成は2つで構成し、

1つは、「まちづくりの重点戦略」の具体的取組みと、もう1つは具体的な取り組みを行う上で常に意識しなければいけない考え方を示した「まちづくりの進め方」としています。

(3) 計画の期間

平成28年度から平成32年度の5年間とします。

(4) 計画の体系

今回の「基本計画」は(1)の計画の位置づけのとおり、重点戦略についての取り組みを示すものとなりますが、戦略以外の取り組みについても各分野の「基幹計画」や「個別計画」の中で基本構想に掲げた将来像を目指して、一体的に進めることを記載しています。

この体系を進めるにあたって、より、整合性・連動性のあるものとするため、基幹計画として、策定を進めなければならないものや、見直しをしないとイケないものもありますので、それらを進め、基本構想・基本計画を頂点とした計画の体系化を進めていくことを示しています。

(5) 財政の見通し

前期基本計画の5カ年の収支をこちらに示していくこととなりますが、記載のとおり、これから策定する具体的な事業計画である実施計画の事業費との調整が必要になりますので、調整後にお示しいたします。

2 まちづくりの重点戦略

- ・前回の審議会にて、それぞれの戦略ごとに、どのようなことを目指すのかストーリー性をつけるという御指摘があったことから、その点について、今回、新たな試みとして、「ある日の白井の人々」というように、戦略ごとにどのような状態を目指すのか、情景が浮かぶような形で示しました。

・戦略1の「ある日の白井の人々」について

この家族は、まず、お父さんの働く場所は都内ですが、東京に近いという位置的なポテンシャルにより家族が住む場所を白井市を選んでいること、駅前の利便性の高いところに子どもを預ける場があること、そして、母親も市内の工業団地に勤務しているということで、市内でも働く場がある状態で、子どものお迎えも行きやすく、さらに、おばあさんが近くに住んでおり、近居で子どもの面倒もみてくれて、子育てにゆとりがある状態。

そして学校では、地域の人が先生になって教えてくれる特徴のある授業があること、最後に、公園では子育て家族が楽しめる状態があるという状態を表しています。

・戦略2の「ある日の白井の人々」について

最初に農家の方が農業経営の一環として体験農園を開設したことにより、市民が農業を体験できる、親しめる場があり、食生活も豊かになっている様子。また農家とあまり農に親しむ環境にない方との交流の場になっている状態。そして「若手なし農家」が会合をしている様子は、さらなるブランド化を図るために多様な事業者などと話し合っている様子。さらに、みどりや自然環境で、里山が保全され、癒しの場として活用されている状態や小さなみどりの創出として、庭や道路沿いなどで市民自らがみどりを創出して、みどりのチェーンをつくっていく様子を表しています。

- ・戦略3の「ある日の白井の人々」について
前段の4行目ぐらいまでで、駅前を中心拠点がお店とともに、市民自らが作り出したマルシェなどでにぎわっている状態。中段では、気楽に行ってみようと思えるサロンなどがある状態、そして、高齢者の方などが生活で困ったときに地域の人によって支えてくれるサービスがある状態。最後は、小学校区のまちづくり協議会などが設立されて、地域の方が自分の地域を良くしようと活動している状態を表しています。
- ・その他、前回の骨子案から変わった部分について
 - ・各戦略の柱の「目標に向けた取り組み」について、前回の骨子案ものでは抽象的すぎるというご意見があり、より具体的な取り組みを記載しました。
 - ・成果をはかるものさしとしての指標ですが、現在、各課との調整を行っている状態です。
 - ・3つの戦略の後には、15ページに戦略と各行政の分野との関係を表した表を示しています。それぞれの戦略がどのような分野で横串がされているかを表すものとなります。なお、前回の骨子案では3つの重点戦略の取り組みを分野別に組み替えたものを掲載することを考えておりましたが、今回、戦略のところ、より具体的な取り組み内容を記載しておりますので、分野別に組み替えたものは重複してわかりにくくなることから、この関係性を示す表のみとしております。

3 まちづくりの進め方

- ・将来像を目指して実施する先ほどの取り組みを実施する際に、情報・共有、持続可能な行財政運営、参加協働の3つの柱を常に念頭におくことを基本としています。
- ・これまでの計画書には、例えば情報共有であれば、「情報公開・提供を充実させます」や「広報やPR活動を充実させます。」といったように何をするかということを記載していましたが、今回の視点では、「どのように進めるか」に視点をおいています。
- ・「まちづくりの進め方」の3つの柱の内容
 - (1) その効果的な方法など、進め方の「基本」を記載しています。
 - (2) プロセスでどのようなことを大切にすることを示しています。
 - (3) この進め方で目指す姿を記載しています。
- ・「1 情報・共有」の目指すところは、それぞれの立場や環境を理解して「共感」が生み出され、豊かなコミュニケーションが実現されること。
- ・「2 持続可能な行財政運営」では、施策や事業の成果を出すとともに、将来を見据えたサービスの質の向上を目指し、組織運営も含めたマネジメント力のレベルアップの実現。
- ・「3 参加・協働」では相互理解や共感、信頼関係、後継者を育てていくなど、人の関係性の広がりやコミュニティの形成になることから、そのコミュニティづくりに貢献することを目指しています。

◆資料 白井市第5次総合計画 前期基本計画の体系の説明

- ・前期基本計画（素案）案の「1 前期基本計画の概要」の次に、前期基本計画と基本構想の基本理念や将来像、まちづくりの進め方との関係を表した体系図を計画書に載せていきます。

【質問・意見等】

[会長]

それでは、今、事務局から説明がありましたけれども、前回の会議での審議会の意見としまして、5点をまとめています。

まず1点目は、戦略にストーリー性を持たせて、どのようなことを目指すのかわかりやすくするという点。2点目は、取り組みが抽象的でわかりにくい。もう少し具体的にしてはどうかという意見。3点目は、取り組みについて、長期的、中期的、短期的に、仕分けをして記載したらどうかという意見。そして4番目は財政事情を考慮した事業やその実施主体を考えていくべきではないかという意見。5点目は、成果を図るための指標設定を検討するという点。

この5点が、前回の審議会の最後のまとめであったわけですが、それを踏まえて事務局で整理してもらったということになっています。

それでは、今、事務局から説明があった点を踏まえて、ご意見、ご質問がありましたら、お願いしたいと思います。

[委員]

だいぶ、抽象的なものが具体的になって、全体がまとまってきているという感じがします。ただ、個人的に意見を言わせていただきますと、まず全体の中の文章が非常に、「何々に基づき」など、行政用語的です。もっと市民目線で、そういう単語はできるだけ取り除いたほうが読みやすく、わかりやすいという感じがします。

例えば、計画の位置づけで、「まちづくりの重点戦略に基づき、市が重点的に」、この辺は非常に読みづらいです。

それとこれは私の考えですけれども、(1ページ目の「1 前期基本計画の概要」の中で)(6)として、この基本計画の5年間で我々が何をを目指すのかというのを入れたほうが、わかりやすくなると思います。今までの基本計画書ではないのだから、それには総まとめとして何か言ったほうがいいのではないかというのが私の考えです。

2ページ目は、ここもやはり、文字が非常に多いなという感じがします。3ページの、「ある日の白井の人々」は、「ある日の子育て家族の白井市の風景」ならば、スラスラっと感じとして捉えるんじゃないかと。もっと自然な言葉を使ったらどうかという感じがします。

4ページ目の、指標については、私は数字の目標で達成した、しないというのではなくて、満足度だと思えます。こういう取り組みの結果、本当に市民が満足しているのか、していないのか。これで、白井市に住んでよかったという満足感があるのかどうか。そういう一つの成果の尺度がいいのではないかと思いますので、あまり数字にこだわって達成した、達成したという形だけでは、市民的にはちょっと違うかという感じがします。

それと、取り組みの中で、政治的なこともあり、難しいのですが、公共交通機関の主体的な取り組みというのは、やはり必要だろうと思います。白井市の中の二つの軸、国道16号線と国道464号線を主体とした交通機関は、やはり主軸を担っているので、そこをきちんと書かないといけないと思います。特に、私が思うのは、白井駅周辺と西白井駅周辺を都市の拠点と生活拠点と言っていますが、そこに成田スカイアクセスが停車しないことは、都市づくりとして大欠陥だと思うのです。都市づくり強化の形として、停車しないようなところで都市づくりとは言えないと思っているので、やはり、公共交通機関の取り組みはそういうことをきちんと書いておくべきだと思うのです。

[会長]

指標のところは、これから検討するというのもありますが、ここで示されている指標はアウトプット指標ですね。山岸委員から意見があったのは、満足度というようなアウトカム指標、つまり、市民は満足したのかということですね。これをするためには、調査をしないといけません。そうすると、eモニター制度などはあるのですか。

[事務局]

まだ、その制度はありません。

[会長]

ちょっと大変な作業ですが、実際にアンケート調査を実施するなどして、指標については考え直すことは必要ではないかと思います。他に、今の山岸委員の意見について事務局のほうからありますか。

[事務局]

公共交通についての取組みについては、14 ページの（3）のところに、循環バス・鉄道ということで、鉄道については、利便性の向上を進めることは入っております。さらに具体的なことになれば、委員が言われたようなことを目指しながら市としても動いていくということは、この裏にはあります。

あと指標の件で、アンケート調査などをして、満足度などの成果指標にしたらどうかということですが、次回アンケートを大がかりにするのは、後期基本計画に向けての調査となり、平成 30 年か 31 年にはさせていただきます。e モニターなどインターネットを活用した調査というところの部分は、懸案と思っております。どういうふうに聞いていくかというものを含めながら、考えてみたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

[会長]

インターネットは今、普及していますので、そういうものを通じて、皆さんに回答を求めるということも必要になってくるのかもしれない。ほかにご意見がありましたら、よろしく願いいたします。

[委員]

15 ページの「若い世代が魅力を感じるゆとりある住環境の促進」が役所の組織では「都市計画・交通」の分野に入るということですが、これでは若い人たちにアピールしないのでは。若い人を取り込もうとするならば、組織を変えなくてはいけないのではないかと思います。少なくとも、ネーミングを変えるなどの工夫が必要です。

もう一つ、戦略 1-2-1 と戦略 3-1-2 の取組みに「工業団地」が出てきますが、これらは関連するものですから、わざわざ 2 つを分ける必要はないのではないかと思います。

また、この段階から選択と集中が既に始まっていないかと思っています。表の赤丸が多ければいいという話ではないですが、赤丸がついている、ついていないというのは、一つの指標になるのではないかと思います。ここでも選択と集中を入れるべきではないかと思っています。

[事務局]

工業団地に関係ある取組みについて、戦略 1-2-1 は雇用の拡大。戦略 3-1-2 のほうは、道路の整備でハード関係となります。このように、視点が違うので分けさせていただいているということがあります。

あともう一つ、全体的に戦略として選択・集中がされていないのではということだと思いますが、今までこのような計画を立てていなかった白井市として、やっとこれでどうかというところでお示ししているものです。もう 1 歩踏み込んだ部分、何かできるかどうかについて、申しわけございませんが検討させていただきたいと思います。

[委員]

戦略3-1-2は道路関係だということで、道路がよくなって、工業団地が活性化し、雇用が拡大すると。卵が先か鶏が先かのような話をしてもしょうがないので、まとめるところはまとめたほうがすっきりとしていいと思います。

[事務局]

委員がおっしゃるように、道路ができて、集積がされれば雇用も生まれる。それは、連携した流れになっていくという事は理解します。ただ、工業団地のアクセス道路については、何十年来の懸案というところもあって、戦略的に進めるという部分で分けて書かせていただいているというところがあります。

[委員]

それはそれで結構です。ただ、気になるのは、何十年来の課題だと言われましたけれども、それだけ長い間抱えてきているものがどういう取り組みで確実に解決していけるのか。今までと同じことをやるのであれば、極端に言うとならないほうがいいのではないかという気がします。将来の全体計画で、工業団地と農業は若い世代の拡充、人口増など、いろいろな面で鍵の一つになっています。取り組みますと言った以上、もっと覚悟のあるものがどこかに出ていなければいけないのではないかという気がするのですが、その覚悟がここからは読み取れません。

[事務局]

やはり現実を見ますと、地権者がおられて、道路1本つくるについても、多額の費用がかかるというところで、これまでなかなか進まないというところはあるのですが、今回のこの計画ではきちんとその部分に対応していきたいという意味表示として、書かせていただいているところがございます。

もう一つ、基本構想の将来都市構造図でも、今つくろうとしている道路と、この10年間で都市計画決定までいきたいという、構想道路も書かせていただいておりますので、その部分については本気度を出したというところあり、そこは理解していただければと思います。

[委員]

そう言うのであれば、そうですかと。覚悟を持っていると言われるのだから、持っていないだろうと言ってしまうしょうがないです。あとは結果で判断する以外、方法はないと思います。ただ、この前、他の委員が言われました。「50年変わっていない」と。それを聞くと本当に変わっていけるのかなと。今まで50年間変えられないものが、これから10年とか20年で劇的に変えられますか。変わることを期待はしていますが。

[会長]

変えていくという決意はしているということで、ご理解いただきたいと思います。ほかにご意見がありましたら、お願いしたいと思います。

[委員]

1ページの計画の体系のところですが、基幹計画の各分野7つありますが、この基幹計画に横串を刺して十分に検討をされているという表現があまり見えないのです。縦割りのような感じに見えるので、もう少し何かやれる方法はないだろうかということ。もう一つ、15ページの一覧表の上のほうに各分野のところ、6つの分野が書いてあります。1ページは7つの分野で行財政が入っています。財政こそ各分野、横串を刺した最大のテーマであると思いますので、財政がどういふふうにかかっているのか、もう少しわかるようにならないかなというのが意見です。

[事務局]

15 ページに示した 6 つの各分野には、行財政は全てかかってくる。表の中で全部の分野にかかわりを表す○をつけるのではなく、「3 まちづくりの進め方」に「持続可能な行財政運営」がありますので、その中でどのように進めていくかを書いているということになります。

[委員]

全部バランスよくあり、良いと思うのですが、横串を刺しているのか、よくわからないかなと思いました。これを見たら、行財政関係なしに進んでいるなという感じを受ける。

[事務局]

全く関係なく進んでいるという認識はなく、こうして、「3 まちづくりの進め方」という項目を設けているということもありますので、ここでは、各施策がどのように各分野と関連しているか、この表で示させていただいています。

[委員]

内容は、よく理解できます。

[事務局]

それと、1 ページの基幹計画と各分野の連携というところですが、環境の分野を例にさせていただきますと、環境基本計画は基幹計画となり、この計画ひとつをとっても、ごみ処理や自然環境など、広く、様々な分野があります。地域福祉計画にしても福祉だけでできる話ではありませんので、連携が既に必要な計画になっています。都市マスタープランについても、相当な連携を持たないとプランが成り立たないというところがあります。このことから、この表を上から下まで串を刺すというのは、なかなかしにくいかなと思います。ここでは、市全体の計画の体系化をより進めていくということで、このような図を使わせていただいている次第です。ご意見としては、理解はいたします。

[委員]

私は、この 15 ページの図は非常にわかりやすいと思いました。前回の審議会での意見に対する事務局の対応についての資料を見ると、戦略にストーリーを持たせましたということですが、私がこれをパッと読んだときに、このストーリーというのは、物語は入ったのですが、実際の戦略としてのストーリーはまだ見えないかという気がしました。

4 ページの戦略 1-1 で、目標実現に向けた取り組み目標、いわゆるインプットが (1)、(2)、(3) と 3 つあり、その取り組みに対し、期待される中心的な効果が恐らく指標に具体的に入ってアウトプットになると思います。そこに最終的にアウトカムという、本当に取り組み目標というふうになるところまでのストーリーがまだ見えてこないの、どの取り組みがどういう中心的な効果を生み出して、それが最終的にどういうアウトカムにつながっているのかというもの、ぜひ「見える化」をしていただきたいなと思うのです。

前回、例えば公衆衛生の分野ではロジックモデルというような話をしたかと思うのですが、こういう総合計画だけではなくて、いろいろな人が集まる行政の審議会でも、やはりインプットレベルなのか、アウトプットレベルなのか、アウトカムレベルなのか、いろいろなところでこうあるべきだというような議論がされていて、実は委員相互の意見がかみ合っていないなということが、よくあるということを感じております。

そういう意味で、諸外国では公衆衛生の分野ですけれども、ロジックモデルというものが導入されております。関係者、こういう委員だけではなく、事務局サイドも全部ひっくるめて、見える化、図式化されたようなものがあると、今、自分たちはこの事業をやっているんだな、ここに向かってこういう事業があるのだなというところが見えてくると思うのです。

やはり 50 年先どうなるかと不安に思う気持ちもよくわかって、それは自分たちがやっている、議

論をしているところが、どこに具体的に向かっていっているのかという、先行き不透明な状態がこういう議論を生み出しているのかなと思いますので、ぜひロジックモデルをご検討いただきたいというふうに思います。

[事務局]

この基本計画の4ページの中で、書かれている取り組み目標の中の、どこの部分が何年ぐらいに終わって、どういうふうになってということをごここに盛り込むべきだという理解でよろしいでしょうか。

[委員]

ある程度、「見える化」をしたほうがいいのかと思うのです。というのは、例えば波及効果というものが記載されていますが、ここでは言い方は悪いかもかもしれませんが、おまけ的な成果になるのではないかと思います。やはり選択、集中という言葉が謳っている以上は、中心的な効果をメインで、中心的な効果というのは指標であらわすとどうなるのかということまで、示していただけると、非常に関係者間では共有しやすいというふうに思います。

[事務局]

見える化の話ですが、目標実現に向けた取り組みをしたことによって、どうなるかというところの部分、このページの中に織り込む必要があるということでしょうか。

[委員]

目標実現に向けた取り組みは、戦略の柱あるいは将来像、それぞれに向かっていくものだと思いますので、全体がわかるようなものです。

[事務局]

資料にある前期基本計画の体系図のようということでしょうか。

[委員]

はい。

[委員]

4ページの(2)で、「子ども連れで外出しやすい公園の魅力向上」とあります。魅力向上にするには、かなりいろいろな手を使わないと、この文字は満足できないと思います。本当に集中と選択といいますと、お金がないのであれば、公園・広場の確保をどうしますかというぐらいしかできないのだろうと思うのです。きれいに文章を見せるために、こういう文字を使いますが、実際、魅力向上といったらすごい範囲が広いので、本当にこんなことまでできるのかということを感じます。その下の取り組みにも「促進」という言葉がありますが、ものすごくいろいろなことをやらないと「促進」にならないです。

もっと単純にこの「促進」をはずして、例えば(1)の取り組みでは「～住宅環境の整備」、(3)であれば、「～魅力ある暮らし」というようにすればよいのではと思います。そこに集中してやれるようなことにしないと。今までのようにお金もある、何もあつという時代では、こういうきれいな言葉を使えたでしょうけれども、そういうところから私たちは白井市を見直していかないと、また相場的なものになってしまうのではないのかというのが、私の考えです。

あと公共交通機関については、14ページに書いてあると言っているのですが、白井市はあと5年が勝負なわけです。5年の間に公共交通機関を本当に何とかしないと、都心回帰でみんな都心に行ってしまうという状況になりかねないのです。ですから我々は、できるだけ避けたいけれども、避けて通れないというものになっていると思うので、きちんと書くべきだというのは私の主張です。

[会長]

ほかに、ご意見ございませんでしょうか。

[委員]

(各戦略にある)「ある日の白井の人々」なんですが、読み物としてはおもしろいと思って、それこそ漫画のちびまる子ちゃんだとか、サザエさんのタラちゃんの声だとか、子供の声が聞こえてくる感じがナレーションみたいに頭に浮かびます。ただ、内容について、男女共同参画の視点をもう少し考えた文に変えたほうがよいと思います。それができたならば、これをぜひとも小学校の教材として、ここの部分、白井市をこれから考えるということで、白井市の勉強をするときに使ってもらいたいなというふうに思いました。

それから、若い世代の重点プロジェクトのところで、若い世代というのがすごく大事だというのはもちろんのことなのですが、例えば先ほどの公園の話で、子供連れで外出しやすいというのも、もちろん若い人にとっては大事ですが、高齢者や体の不自由な人も含めて誰もが利用しやすいというふうに変えると、広がりが出ると思うのです。

戦略3「拠点創造プロジェクト」のところで、もともと駅圏ということで白井、西白井駅が白井の中の拠点になるわけですが、そう考えると、もちろん他の地区が全く入っていないのと、同じニュータウンであるはずの桜台のところが全く言葉として出てきていないので、桜台の住民の人たちはどう思うかなど、桜台の位置がどういうふう考えたらいいかないかなど思いました。

「3 まちづくりの進め方」のところですが、これは市がやるべきことと、それから市民に求めるものというのも多分あると思います。ここでは、市がやるべきこととして全部書かれているのですが、市民の立場から、又は市民に何が求められているのかというものが、もう少し明確に言っていただけると市民もそういう意識を持てるのではないかと思いました。

[事務局]

「3 まちづくりの進め方」については、これを市民も職員も見ることによってという視点は入れたつもりだったのですが、委員が読んで、どう見ても行政っぽく見られるのであれば、もう少し精査が必要ということだと思います。

各戦略にある「ある日の白井の人々」のストーリーで男女共同参画の視点が欠けていることについては、検討させていただきます。

「若い世代の定住プロジェクト」については、ここで、私たちは選択と集中ということで若い世代を呼び込みたいことで戦略としています。高齢者や障がいのある方をないがしろにする気は全くありません。ここで「若い世代定住」という戦略としときながら、「誰もが」となってしまうとそこで意図する戦略ではなくなってしまうと思います。ここでは子供連れ又は若いカップルが楽しく公園で過ごせるようなというこの視点のご理解をお願いしたいと思います。

[委員]

例えば戦略1-1の(2)の取り組みで、「子ども連れで外出しやすい都市空間や」と、書いてあります。そして、その下に「公園・広場に子育ての場としての機能を整備する」と書かれています。若い人たちというのは、子育ての人もそうでないひとどちらにも含まれているのであれば、もう少し表現を検討したほうがよかったかなというふうに思いました。

[会長]

3ページの「ある日の白井の人々」のコラムの部分ですが、意見あったように男女協働参画の視点で修正したほうが良いと思います。それともう一つ、ちょっと気になったのは、そのコラムの中で、「駅前の小規模保育所」がでできます。各地で聞いてみるとこの小規模保育所は、待機児童対策でつくったと思うのですが、あまり希望者がいないと聞いていますので、「保育所」にしておいたほうが無難という感じはします。

[委員]

1つは、各戦略にある「ある日の白井の人々」という書き方なのですが、イメージは湧きますけれど特定の生活の仕方のことになってしまいます。様々な価値観があるので、それぞれが自分なりの生活を送っていけるということが大事、あるいは自分なりの豊かさを追求していけるということが大事なので、これが理想像だというふうに捉えられてしまうのは違うと思いますので、ほんの一例という形での書き方になると考えます。

あと描き方としては、この基本計画をもっと市民にわかりやすく伝えるという別の媒体をつくって、それを例えば子供たちに見せていく。基本計画のイメージをわかっていただくような、冊子なのかチラシなのか、いろいろあるかもしれませんが、そういう中でこういったことを生かしていくというのがあるかと思います。その辺もまたいろいろ考え方があるかと思うので、いずれにしても、特定の生活様式、特定の価値観で書かれてしまうとまずいかなというのが感想です。

それから2つ目は、各戦略の指標で、先ほどの説明でイメージは湧くのですが、どういう意味での指標を考えていくのかということをもう少しつめる必要があると思います。今回、従来の決まり切った総合計画ではなくて、いろいろな分野を絡めながらやっていくっていう、新しい取り組みをされているわけですから、それに見合った指標というものをつくっていく必要があると思います。ここで（仮）として書かれているような数値化というのは、従来型のやり方であって、せっかく分野融合型、重点プロジェクトとして総合計画を策定しようとしている中では、こういった数値の形でははかりきれないと思います。

そういう意味では、私はここには指標は載せないほうが良いと思います。むしろ指標というのは、何年もかけてつくっていくものなのです。ですから当然、先ほど満足度という話がありましたけれども、指標というのは、市民の方々の主観的満足度です。例えばこのゆとりある暮らしということであれば、何を持ってゆとりある暮らしなのかというと、主観的にはたくさんあるわけです。市民アンケートなどを実施して、どういう主観的満足が現段階であるのか、ないのかということ、客観的にあぶり出すという作業をそれなりの時間をかけてやっていく必要があります。

そして、そういう主観的満足度を満たすために、行政としてはどういことをやるのか。これが主観的指標で、それは事業ベースで捉えていくということなのです。このような主観的視点、客観的視点であわせたものが、この指標ということになり、これはそう簡単にできるものではないと思いますので、いろいろ研究をしながら、そしてアンケートを実施しながら、この指標を何年かかけてつくっていく必要があると思います。ただ、事業ベースである程度評価していかなきゃいけないということもあるでしょうから、それは実施計画で指標として現段階では落とし込んでおいたほうが良いのかなというように思います。

当面、暫定的に事業ベースで指標を立てて進捗管理を図っていく。同時に今後の新しい基本計画ができあがって動かしていくと同時に、その指標づくりというのを何年かかけて進めていながら、この基本計画そのものを図り得る指標というものをつくっていく。そういうように考えたほうが良いと考えます。これが2つ目です。

それから3つ目は、15ページのところの「重点戦略と各分野の関係」というところですがけれども、私のイメージですと事務局は相当苦労されているのではないかと予想はします。というのは、多分それぞれの各セクションがいろいろな計画事業というのを持っていて、この取り組みはうちに関係ある、ないという、そういうせめぎ合いをしている部分というのがあるのではないかと思います。相当調整の難しいところがあると思います。ですから、これだけ今内容が載せられているというのは、だいぶ努力されたのではないかと予想はしています。

ただ、理想的なことを言えば、この白丸の部分がもっとついていてもいいのかなと思います。それだけいろいろな計画事業が有機的につながっていくということで、いろいろな相乗効果を図っていくことができます。イメージ的には、この白丸の部分がさらにふえていく、あるいは段階的にふえていくような方向性でこの基本計画を運用していくということも確認しておく必要があると思います。

4つ目ですけれども、16ページ以降の、「情報・共有」、それから「持続可能な行財政運営」、「参

加・協働」の書き方は基本構想レベルに近いです。基本計画に載せる進め方というのは、私のイメージですと戦略ごとに、この進め方がどうなっていくのかということを書いたほうがいいだろうと思います。例えば、戦略1「若い世代定住プロジェクト」であれば、若い世代定住を進めていくに当たって、情報・共有のあり方をどうしていくのか、持続可能な行財政運営をどうしていくのか、参加・協働をどうしていくのかということを実際だったら戦略1-1とか、1-2ごとに描いていてもいいのではないかと。ただ、それはちょっと細か過ぎるということであれば、少なくとも戦略1、2、3それぞれに今の3つの手法がそれぞれ掛け合わされて、どういうふうな形でそれぞれの戦略プロジェクトというのを進めていくのかというふうな描き方をしたほうが、いいのではないかと思います。例えば情報・共有というのはどうなされていくのかということですね。若い世代がどういったことを考えているか、どういうことを求めているのかという、これまでやってきたいろいろな各種調査も情報もあるでしょうし、これから新たにとっていくということもあるでしょうけれども、そういった情報がこの白井市市民の中にどういうふうにも共有されるかという、その部分を方針として描くのがこの場面なのです。

また、行財政運営と参加・協働ということであれば、例えば働く場づくりとか子育てという部分で、工業団地に絡めるのであったら、工業団地の事業者の方々に地域に出てきていただいて、そこで今どんな事業をやられているのか、どんな夢を持って仕事をされているのかという情報提供をいただいて、そしてその中で魅力ある仕事をしていく。これはまさに白井の一つの資源になります。

さらにそういった仕事を、子供たちがインターンシップで体験していただくか、これが参画になります。人のいろいろな動きというのが交わっていく。そして、そこに子育て支援に配慮している企業であれば、それを行政が評価していくとか、そういったことも絡めていけば、雇用の場とか働く場というものは、もっと豊かに開かれていく。これが参画のイメージです。

さらに行財政運営に絡めるとするならば、こういう雇用ということで、もちろん白井にある今現在ある雇用の場ということもそうですけれども、例えばそこに何か新しい若者たちに来てもらっているいろいろな起業をしてもらおうというのであれば、そういうところで新たに雇用をつくる。その雇用をつくるために、じゃあ何がどういう働きをしていくのかということはある程度、方針としてその中に盛り込んでいくということ。

行財政運営ということであれば、多分まだ計画の基本的なイメージは行政が何をやるかということのウエートがまだ多過ぎるのです。これはもっと、民間企業には何をやってもらえるか、あるいは何を期待しているか、市民の方々には何を期待しているのか、子供たちが何を期待しているのかということをやはり踏み込んで書くということなのです。書かないと計画は動いていかないので、実施計画を立てられないのです。

どのプロジェクトにしてもそうですけれども、誰がどういうふうな形で動きをしていくのかという大まかな方針ぐらいまでは、この基本計画に盛り込んだほうがいいのではないかと。それがあって初めて、実施計画でもっと具体的に、例えば事業者の方々にはこういった協力をしてもらおう、農家の方々にはこういった協力をお願いしたいというふうなことを盛り込んでいく。そこまで描く。そして、もちろんできること、できないことがあるわけですから、その中で進めながらそれぞれの役割分担というものを見直していくとか。これはさっきの指標づくりにつながります。

あと、行政にできないことがあるのであれば、もっと市民が負担しなければいけないから別の形での調達を図っていくことも考える必要があります。どうしても行政というものは、税金を集めて、それをサービスに変えて分配するという、この構図にまだとられ過ぎなのです。例えば、もっと市民は地域に寄付をしていく、投資をしていく、ビジネスをしていくと、いろいろな形でお金というのはこの地域をどんどん出ていますから、それをこの白井市の中で循環させることによって、行政が調達できないようなことをその中で作り出していき、生み出していき、享受していくことが、その裾野を開く。これが協働であり、行財政運営の工夫の仕方、そういう方針を少なくとも戦略1、2、3ごとに、ある程度方針として描けば、実施計画にもつながるといふふうに思います。

[会長]

委員からご意見ありましたけれども、事務局のほうはどうですか。

[事務局]

戦略ごとに進め方の部分をどう書いていくか、これから時間との戦いになっていくので、早急に変えられるかというところの部分を踏まえて持ち帰らせていただきたいと思います。

指標についても、ただ単に数字でできたというのではないというのは十分理解します。満足度を上げていくために市民とともに考えていくという視点では、市民にどう示して、市民がどう感じるか、主観と客観がとても大事だというお話がありました。今までのやり方とは違う計画策定をここまでやってきたのだから、その部分も変えなければいけない。これから先、1、2週間の中になりますが、検討させていただきます。

[会長]

戦略ごとに検討するのが難しければ、最後におっしゃった、要するに行政が何をすべきか、それから市民がどういう役割を担うべきかなど、そういうことがここに書かれていると非常にわかりやすいかなという気がします。

[委員]

時間がないのはすごくわかるので、「1 前期基本計画の概要」の2ページ目にこの基本計画で目指すものというもののの中に、入れていけばいいのではないかと思います。

[委員]

誰が、あるいはどの業界が、どの領域が、そのプロジェクトについて何をやっていくべきかというところは、ある程度の形として記しておかないと、実施計画は立てられないと思います。その部分は明確な方針として立てたほうが良いと思います。

あと、誰がという部分も、例えば若者の起業支援ということ一つをとっても、それも地域のいろいろな事業者の方々、いろいろな市民活動団体、それから金融機関、いろいろなところが役割を果たせるわけです。こういったことをある程度盛り込んで、少なくとも働きかけていくというようなことを描いておかないと、ただ抽象的な形にとどまっていたのでは、そのあと動いていかないのです。そういうことはちょっと工夫していただきたいということです。

あと、先ほど説明が不十分だったのですが、行財政改革の部分で前回資料としてお示しいただいているように、今、財政的に厳しいわけです。そういうような中で、行政としては最低限ここはやるのだという部分は、ある程度の方針として描く。それ以上、行政としてどこまでやれるのかどうかというのは、今後の推移の中でかなり厳しいけれども、工夫をしながら、例えばこの事業をやるというときに、行政とすれば今は100%でやる。でももうちょっと今後減らしていかなければいけない。減らしていった部分をどういうふうな形でそれを補っていくのか。それは市民が地域自治という形でやっていくのか、それとも寄付のような形でやっていくのか、県とか国の予算を引っ張ってくるという形でやるのか、多分いろいろな手法があり、そういう裾野を開いておかないと、予算が厳しい中で基本計画ということにならないと思うので、そういう意味で、前回、短期、中期、長期ということを申し上げたところです。短期的には、まだいいかもしれないけれども、中長期的になってくるともっと厳しい。厳しくなっていくときに、カバーできない部分はどのようにしていくのか、それはもう市は最低限度のことしかやらなくて、それ以上の部分はもっと違った形で市民が担うとか、別の形で補充するとか、そういう大まかな見通しについては、基本計画で立てておいたほうがいいのではないかと思います。

[会長]

ほかにご意見ありましたら、お願いしたいと思います。

[委員]

非常にこれは、よくできたと思います。ただ、「3 まちづくりの進め方」は、他の委員から意見があったようなことは、考えたほうがよいと思います。独立するのではなく、戦略1、2、3の中に入れたほうがいいたろうということはそう思います。それ以外は、すごくよくできたと思います。文言はちょっと手直しすればいいことではと思います。

[会長]

9月1日からパブリックコメントですよね。それまでに修正が間に合いますか。

[事務局]

ちょっとわからないのですけれども、(市民や事業者などのそれぞれの役割を示していくことなど)この期間の中でコンセンサスを得ることが、対外的にはなかなか難しいというのは思っています。つまり、例えば工業団地協議会へ行って、こういうことを計画に書くのだけれども大丈夫かどうか、了承をもらいながら書き込むというのはなかなか難しいと考えます。ただ、思いとして、期待しているという意味合いでの書きようであればというのがありますが・・・。

ただ、今、まち・ひと・しごとの総合戦略も策定していて、そこでは銀行の方とか、工業団地の方とか、あと農業経営の方ですとか、いろいろな部分で今、議論は進めています。

その中で、市がやることと、市民や事業者がやることなど、厚みのある書き込みを思いで書いてしまってよいのかと。思いを書いていいのと、本当に現実的に、「そうだね。こうやって動かなきゃいけないよね」と納得してここに書くのとでは、ちょっと違うのかなと思っていて・・・。

現在、この前期基本計画には工業団地のことを何点か書いています。いい企業についての情報の共有をするために、いろいろな工業団地の見学ツアーとか、それから工業団地の魅力を発信し、市民雇用の拡大につなげます。ここについては、ワークショップなりに行った中で、そこで議論した中なので、ここには落とし込んでいる。そこは了承をもらっているというところではあります。

ただ、すべての戦略でいろいろな当事者がある中で、ご意見を踏まえた書き込みができるかなというのは、ちょっと今、不安に思っているところです。思いを書くということであれば書けるかもしれませんが、コンセンサスがどこまで取り得るか、書いてあることによってやれるということは、理解しますが、どういうふうに書けるかというのは、ちょっと持ち帰らせていただければと思います。

[会長]

それは具体的なところは、恐らく無理です。ですからここで言っていることは、要するに公助と共助と自助とか、そのあたりで書いたらどうかと思います。その辺も含めて、検討してもらえればと思います。

[委員]

私は具体的に描いていいのではないかと思います。それは確かにいろいろ(当事者に)了承してないとか話が出てくるというのは、多分、ご指摘のとおりかと思えます。しかし、そこは書き方であって、コンセンサスを得たものしか計画に載せられないという、多分、何も始まらないのではないかと思うのです。むしろ、これからいろいろな動きをつくり出していくんだという市の姿勢をこの基本計画で示すというのが、問われているのではと思います。

そういう意味では、思いなのか、期待ということなのか、それはやはり表現の仕方はありますし、個別具体的なことを描き過ぎるのはちょっと問題だとなれば、その辺の描き方はいろいろ工夫はあるかと思うのです。例えば、「〇〇業界では～」なことは描いていかないと、市としてどういう期待

をしているのかわからない。これをしますとか、こうしなさいとか書いてしまうと、これは全然違った話になってしまいますけれども、どういう部分の力を必要としているのかということ、少なくとも議論として膨らましていくというきっかけに、この基本計画がなるというぐらいのイメージは持っておいたほうがいいのではないかと思います。

[会長]

その辺も含めて、検討課題ということで。ほかに。

[委員]

「みどり活用プロジェクト」ですが、8ページの目標実現に向けた取り組みということで、戦略2-1-(1)は、多分、農業委員会の仕事そのままのことなので、これから実施計画をつくるに当たって、農業委員会のほうの意見を吸い上げていただきたいと思います。私が委員会をやったときもその意見の吸い上げがあったのですが、事務局のほうで案をつくって、委員にこれでいいですか、これで答申します、みたいな形になってしまっていたのです。今回もそうなる可能性もあるので、内容をよりわかっている委員さんのほうからすくってもらいたいということもしっかりやっていただきたいと思います。

また、ここに書いてある内容については、農業団体や、各農家さんをお願いしてあることがほとんどだと思いますので、この内容についても、その農業団体とか農家さんに話を通して、内容を理解してもらった上で進めていただければと思います。

そのあとの10ページの戦略2-3-(1)の仮称「谷田・清戸市民の森」などという、名称が入っているのですが、名称を入れてしまってどうなのかなと思っています。市としても完全に動くということなのですね。私の認識だと、ほかにも市民の森があって、そこが十分市民の方が活用されて、憩いの場になっていると思います。谷田・清戸市民の森もつくろうよという話だったらしいのですが、そういうふう特定の名称を入れてしまっているのかなと思いました。

[事務局]

「(仮称) 谷田・清戸市民の森」については、もう現在の第4次総合計画の中でも進んでいるという事実があり、地権者との話し合いや企業庁用地を買い取るとかいろいろなことがすでにあります。その他の市民の森の活用状況については、あまり使われていないなら閉鎖するなど、いろいろなことを考えなくてはいけないという地点にはきているということは、確認をしています。ここであえて「(仮称) 谷田・清戸市民の森」を取り組みとしているのは、ほかの市民の森と比べ、広さなど少し違った魅力がありますので、意識的にここは進めるぞというところの取り組みであります。

あともう一つ、農業委員会や農家さんと話し合いをきちんと深めながらというところの部分は、農政課を通じ十分していかなければいけないことは理解しているところです。

[委員]

1ページの基幹計画ですけれども、この基幹計画の策定の進捗状況、途中経過を教えてください。

[事務局]

知り得ている情報でお伝えいたします。地域福祉計画につきましては、平成28年までが計画期間となりますので、平成29年から始まる計画として、これから見直しを進めます。

教育大綱につきましては、今後、基本計画の期間中には策定します。また、産業振興計画についてですが、産業関係は、産業振興条例がありますので、それを踏まえながら計画をつくっていくことは可能であるということで、同様に基本計画の5年間の中でつくっていきます。環境基本計画につきましては、今まに見直しをしているところでございます。コミュニティ基本計画につきましては、参加・協働プランがありますが、平成27年度で終わるということがありますので、これを内包しながらコミュニティ、地域というものを踏まえた計画について、今後策定をしていくこととなります。都市マスタープランにつきましては、今まに総合計画と一緒に策定してい

るところです。行政経営指針につきましては、この平成27年4月から行政経営課ができましたので、行政経営指針について平成28年度に策定。さらに平成29年度に行政経営改革ビジョンを策定し、そのアクションプラン策定につないでいくということになっており、これも早急につくるというふうになっています。

[会長]

それでは時間ですので、基本計画素案について、さまざまな意見を出していただきました。審議会としての意見をまとめますと、大きくは3点になると思います。

まず1点目は、文章の書き方、文言を含めて、もう少し検討ということ。それから2点目は、指標の設定については、ここに書くべきなのも含め、指標をどういうふうにしていくか、再度検討するという。3点目は「まちづくりの進め方」について、それぞれの役割を含めて、これを戦略ごとに具体的にしていくのかということ。以上3点を審議会の意見としたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

(2) その他

[事務局]

◎本日、審議会としてご意見のあった3点については、検討して修正したものをパブリックコメントまでに各委員へ送付させていただきます。

◎次回の会議について

- ・事前調整では、平成27年10月5日（月）午後2時から3階会議室2で開催予定であったが、会長の出席が難しくなったことから、時間のみ変更をお願いし、同日の午前10時から開催とすることとなった。

4. 閉 会

[会長]

それでは本日の議題は全て終了いたしました。

これをもちまして、平成27年度第2回白井市総合計画審議会を閉会いたします。ありがとうございました。

●会議終了